

マスターズ広島 News Letter

第2号（2010年10月28日）
発行：「広島大学マスターズ広島」事務局

【目次】

1. 「秋の例会」の開催報告について
2. 広島大学から依頼のあった「平和科目」開講案について
3. 広大マスターズ企画のロシア旅行のご案内について

1. 「秋の例会」の開催報告について

広島大学マスターズ広島では、会員間の交流と親睦を深めるために、春と秋に例会を開催することにしていましたが、第1回の秋の例会は、下記の通り広島大学総合博物館を見学後、博物館の館長及びスタッフとの意見交換会を開催しました。

日時：平成22年10月9日（土）

プログラム：

- 12：45 広島大学（東広島キャンパス）教育学部正面玄関前集合
- 13：00－14：00 広島大学総合博物館の見学
- 14：00－15：45 館長の岡橋秀典教授から博物館ができるまでの経緯と現在の活動状況についてご説明いただき、博物館が当面する課題等について博物館のスタッフとの意見交換会を開催



広島大学総合博物館入口前での記念写真

広島大学総合博物館は、教育学部の大講義室を改装して本館としたもので、展示室としては十分な広さではありませんが、特に、地元東広島市の里山・里海の世界や文化の展示物を中心に、動植物や化石の標本など500点余りを展示され、「地域密着型」で「小さいながらも質の高い博物館」を目指されています。

例会当日は、あいにく小雨の降る一日でしたが、広大マスターズ広島の会員10名と東広島の広大マスターズの会員1名が参加され、総合博物館を見学させていただきました。総合博物館から館長の岡橋教授と学芸員の清水助教に館内の展示物を詳しく説明していただきました。

総合博物館に入っすぐのところには、大学に来られる海外からのお客さんが多いということで、広島大学の歴史や大学教員の研究業績を説明するコーナーが設けられています。自然豊かなキャンパスであることを来館者に理解してもらうために、大学全景のジオラマも展示されています。単一キャンパスとしては、日本一広いキャンパスといわれていますが、東京ドーム20個分、マツダ・ズーム・ズーム球場の50個分の広さであることをお聞きし、あらためてその広さを実感しました。

総合博物館は、もともと階段教室であった講義室を改造された関係で、館内は坂になっていますが、この構造を利用して、里山から干潟、里海の動植物が展示されています。本格的な展示物としては、民間人の寄託による化石がメインですが、三葉虫、アンモナイト、直角貝などの化石に加えて、恐竜の足跡や卵も展示されており、「さわる」ことが出来る化石が展示されているのは大変珍しいので、来館者に喜ばれているとのことでした。

異色の展示物としては、厳島神社社殿の復元模型がありますが、広島大学の文学研究科の大学院生が厳島神社の建てられた最初のころの社殿の資材台帳を調べた結果に基づき、国立歴史民俗博物館が復元したもので、同博物館から借りてきて展示されているとのことでした。



東広島キャンパスの全景のジオラマ



厳島神社社殿の復元模型



館内の見学風景（その1）



館内の見学風景（その2）

【広島大学総合博物館が出来るまでの経緯と現在の活動状況】

総合博物館の見学終了後、教育学部の教室に移動し、岡橋館長から総合博物館が出来るまでの経緯、総合博物館の現状と課題などについて講演していただき、今後の総合博物館のあるべき姿についてマスターズの参加者と博物館のスタッフとの意見交換会が開催されました。

【岡橋館長の講演の要旨】

広島大学の総合博物館は、旧7帝大の大規模な博物館に比べると小規模ですが、逆に自由度が高く、独自のコンセプトを追及できるメリットがあります。ヒト、設備、資金が不足しているとのことでした。しかし平成18

年4月の開館から昨年9月には入場者数が3万人を超え、小中高生だけでなく、町内会や特別老人ホームの方など地域の皆さんにいろいろなことを感じ取ってもらうことが出来ているのではないかとのことでした。

大学が博物館を持つことは、資料の劣化や喪失を防ぎ、学術標本資料の所在情報を明らかにし、知的遺産の継承に役立つという意義を持っていますが、展示施設のスペースが不足し、公開が必ずしも十分行われていないという問題点を指摘されました。広島大学は、大学（キャンパス）まるごとミュージアムという構想のもとに、総合博物館を核にして、各部局の展示スペースをサテライトとして、ネットワークを組んでいることが特徴となっているとのことでした。

開館からすでに4年が経過していますが、学術標本資料の展示や社会連携事業の推進には貢献しているものと思われませんが、スタッフの充実や、学術標本資料の調査とデータベースの構築はまだ十分行われているとは言えないという状況について説明されました。今後、特定分野を深く掘り下げた専門性に取り組むとともに、大学の教育とも連携し、「学びのショーウィンドウ」としての展開も目指したいとの抱負を述べられました。

【博物館のスタッフとの意見交換会で出された意見】

○広島大学の総合博物館は、大規模な第1世代の博物館に対抗して各部局の協力によりサテライトを設置してネットワーク型のミュージアムを目指しているが、サテライトを充実するために、各部局の一層の協力が必要である。マスターズの会員への協力要請がありました。

○総合博物館の管理に係る組織として、社会連携担当の理事、研究担当の理事、教育担当の理事のほか、学術室、図書館、文書館、産学・地域連携センターなどと連携して、さまざまな事業を行っておられますが、まだ連携が十分であるとは言えないのではないかとということで、今後より積極的に取り組まれるとのことでした。

○学芸員の資格取得条件が厳しくなり、博物館での実習も強化する必要があり、対応を検討中とのことでした。

○博物館への入場者を増やすため、広島市内でも講演会を開催していますが、広大マスターズ広島の会員の方で、博物館からの行事予定などのニュースをご希望の方は、メーリングリストで配信していますので、ご連絡くださいとのことでした。(メールアドレスをご連絡いただいている方に、博物館のメールマガジンを配信していただくようお願いしたいと思いますが、ご希望でない方は、本会事務局までメール連絡をしてください。)

2. 広島大学から依頼のあった「平和科目」開講案について

発足したばかりの「広島大学マスターズ広島」に、早速、広島大学から「平成23年4月発足の教養教育の新科目区分、“平和科目”の一部を担当して頂けないか」との依頼を受けました。

新カリキュラムでは、教養科目は(1)共通科目(外国語科目、情報科目、領域科目、健康スポーツ科目)、(2)教養コア科目(教養ゼミ、平和科目、パッケージ別科目、総合科目)、(3)基礎科目にわかれています。このうち平和科目と健康スポーツ科目が新設です。大学から提示されている要領(案)は以下のとおりです。

【平和科目】

①科目区分として新設する。

学生には平和に対する意識の涵養が求められている。平和については「戦争」以外にも、「貧困」、「飢餓」、「人口増加」、「環境」など様々な観点で考える必要があり、このような観点から「平和を考える」場を提供するために授業科目群として提供する。

②選択必修 2単位

③新設の科目や既存の授業科目で平和に関するものをまとめ、授業科目群として提供できるように準備する。

④平和希求委員会平和教育部会が準備を行う。

すなわち、選択必修として全校生(1年次生約2,600名)が1科目(半期一コマ=2単位)を選択し単位を取らねばなりません。現在、約25科目が準備されるようです。

平成23年度は、広島大学マスターズ(東広島で4年前設立)が、西条キャンパスで前後期それぞれ一コマ(2単位x2)を開講し、われわれ「広島大学マスターズ広島」は東千田キャンパスで前後期それぞれ一コマ(2単位x2)の合計4コマ(8単位)を開講する計画です。

われわれの幹事会と「東広島のマスターズ」と議論の結果、授業科目名はすべて「平和と人間」とし、東広島開講分は「平和と人間A」(前期)、「平和と人間B」(後期)とし、われわれ東千田開講分は「平和と人間C」(前期)、「平和と人間D」(後期)とすることと致しました。現段階では、受講学生の構成は、前期分(平和と人間C)

は、法学部・経済学部夜間主コースの一年次生のほとんどが1セメ〔夜間1・2時限(18:00-19:30)〕で受講し、後期分(平和と人間D)は、霞キャンパスを含むそれ以外の学生が受講することになろうかと推測しています。

未知の領域の多い仕事ですが、現今の若者の変貌と大学の窮状を見るにつけ、われわれが少しでも貢献できるなら嬉しいことと考えております。

幹事会で検討し、なにぶん時間はないものの本会にとり有意義かつ望むところでもであると、お受けすることに決し鋭意検討に入りました。まずは、教養教育全体の中での担当可能な講義の位置付けを行い、「入会申込書」に記載された入会者のメモ(得意分野)も参考にさせて頂きながら、オムニバス形式で講義の全体像を次のように組み立ててみました

(I) 授業科目名：平和と人間C——広島で学ぶ(原爆とは何だったか)

* 授業内容の概略：

この授業では、原爆に焦点を置き、担当教員の被爆体験を中心に据え、人間にとって原爆とは何であったかを学ぶ。われわれが「人間」として等しく希求する「平和」を脅かす最たるものは戦争である。本講では、戦争を①その原因、誘因、②その実際、実態、③それがもたらすもの、に別け、それぞれを「事実として直視すること」を基本的な視点とする。各担当者は専門分野、経験から三者のいずれかに重点を置き、基本視点に則って講述する。

本講の目的は、受講する学生が人間としての自らを豊かにしつつ、その大前提として、戦争を回避する論理を構築するに資することにある。

* 授業計画(案)——氏名のあとは、退職時の所属

第1日 渡邊一雄(総合科学部)——問題提起とこの授業の組み立て

(1) 戦争とはなにか

第2日 岡本 明(文学部)——ナポレオン戦争とヨーロッパ

第3日 井上研二(総合科学部)——民族紛争

第4日 高橋 衛(経済学部)——戦争と軍縮I

(2) 原爆とは何だったか——ある被爆体験

第5日 植木研介(文学部)——ある被爆体験

第6日 同 ——被爆と詩歌

第7日 寺地 遵(文学部)——被爆体験の重み

第8日 北川建次(教育学部)——被爆をどう伝えるか

第9日 同

第10日 岩崎文人(教育学部)——小説を通してみる原爆

第11日 同

(3) 原爆の威力とそれが残すもの

第12日 石丸紀興(工学部)——復興と被爆建物の保存

第13日 武市宣雄(医学部)——放射性物質は何を残すか

第14日 宇吹 暁(原爆放射能医学研究所)——被爆資料と総括

(第15回)「学長の平和モニュメントのレポート課題」

*学外の平和関係の講演の聴講を授業回数に加えることがある(許可制)。

(II) 授業科目名：平和と人間D——広島から未来に向けて

* 授業内容の概略：

われわれが「人間」として等しく希求する「平和」を脅かす最たるものは戦争である。この授業では、戦争および原爆が人間および文化にもたらす事実への直視を出発点に、一つの究極兵器である原爆の基礎技術である原子核物理学が技術として人類に何をもたらすかに考えを進める。

本講の目的は、受講する学生に、戦争、ことに兵器開発の歴史を理解させ、戦争を回避する論理を自ら構築しながら人類の未来にとって科学がいかなる働きをするか考えさせることにある。

＊ 授業計画 (案)

第1日 渡邊一雄 (総合科学部) ——問題提起とこの授業の組み立て

(1) 戦争は何をもたらすか

第2日 岡本 明 (文学部) ——ナポレオン戦争とヨーロッパ

第3日 高橋 衛 (経済学部) ——戦争と軍縮Ⅱ

(2) 被爆体験をどう伝えるか

第4日 北川建次 (教育学部) ——被爆体験 (1)

第5日 岩崎文人 (教育学部) ——被爆体験 (2)

第6日 寺地 遵 (文学部) ——被爆体験 (3)

第7日 植木研介 (文学部) ——被爆体験 (4)

第8日 宇吹 暁 (原爆放射能医学研究所) ——被爆資料と総括

第9日 宇吹または渡邊 ——映像の提示・解説

(3) 原子核科学が人類に残すもの

第10日 大杉 節 (理学部) ——原爆の威力

第11日 同 ——原発を考える

第12日 武市宣雄 (医学部) ——被爆と人体

第13日 同 ——これからの放射線医学

第14日 渡邊一雄 (総合科学部) ——同位元素標識、バイオ兵器、総括

(第15回)「学長の平和モニュメントのレポート課題」

＊学外の平和関係の講演の聴講を授業回数に加えることがある (許可制)。

時間的な関係で、少ない資料から上記の会員の方にお引き受けいただけるかどうか、またタイトルについてもご意見を現在照会中です。もとより他のマスターズメンバーにも適任者が居られると思いますし、「全体構成」についても議論のあるところとは存じます。とはいえ時間的制約もあり、まずは第一期 (平成 23 年度分) を上記のような要領で開講する準備をしていますことをご了解いただければ幸いです。この結果は今後のマスターズ通信、及び第二回総会で報告し、さらに 24 年度以降の展開、充実を図れればと考えております。

3. 広大マスターズ企画のロシア旅行のご案内について

平成18年12月に設立された東広島の「広島大学マスターズ」では、設立以来活発な事業活動を行っておりますが、このたび別紙のようなロシア旅行の企画をされています。世話人の原野昇先生から別紙のような案内文をいただき、われわれ「広島大学大マスターズ広島」の会員も参加できるような企画としていただいています。ご関心をおもちの方もおられると思い、「マスターズ会員への案内文」、「企画書」、「旅行日程・経路表 (2 コース)」、「土産品注文書」、「返信用封筒」及び「旅行申込書」を同封させていただきました。

「旅行日程・経路表 (2 コース)」の最上部に「案」という文字が入っていますが、ロシア旅行社の説明によると、12月に正式の旅行日程・経路が出来上がるので、それまでのものはあくまで「案」とのことですのでご了解ください。

別紙の「企画書」及び「旅行日程・経路表 (2 コース)」などをご参照のうえ、「旅行申込書」に必要事項をご記入のうえ、返信用封筒 (料金受取人払い) により直接ロシア旅行社の方にお申込みください。なお、別紙の「会員への案内文」にも記載されていますように、11月24日 (水) に下記の通り、西条で旅行社の担当者による旅行説明会も開催されますので、ご検討のご参考にしていただければ幸いです。

【説明会の開催について】

ロシア旅行社の担当者の参加を得て、旅行参加者および参加検討中の方を対象にした説明会が下記の要領で開催されます。

日時：2010年11月24日 (水) 14:00～15:30 (質問時間を含む)

会場：サンスクエア東広島、3F コラボスクエア会議室

JR 西条駅から徒歩5分 (地図：<http://collabosquare.com/access.html>)

上記説明会への出席をご希望の方は、資料準備の都合上11月17日（水）までに、「広島大学マスターズ」の世話係をされています下記の原野先生までお申し込みください。

お問い合わせは：原野 昇（世話係）

メール：nharano@hiroshima-u.ac.jp

電話：082-428-3962

広島大学マスターズ広島事務局

〒730-0053

広島市中区東千田町一丁目1番89号

広島大学東千田地区支援室気付

(FAX) 082-542-6964

(E-mail) masters2@hiroshima-u.ac.jp